

せんしゅん **時記** **1**

長岡京発見之地 記念碑 完成!

(今号 表紙写真)

千春会病院前にて除幕式
 平成22年11月11日 吉日

長岡京遷都の日 延暦3年(784年)11月11日

平城京から長岡京に遷都されたのは、西暦 784 年 (延暦 3 年)11 月 11 日のこと。

文献上でしかその存在が示されず、「幻の都」と称されてきた長岡京ですが、なんと！遺跡発見の端緒となったのが、千春会病院の真下でした。

長岡京市より「千春会病院前に記念碑を建立したい」とのご依頼を受け、栄えある発見之地となったことに、深いご縁を感じた理事長は、千春会も



「長岡京」の第一発見者である「故・中山修一先生」が、この地を発掘されて以来、平成 22 年の発掘 2000 回を記念して建立されました。

『長岡京発見之地』と刻まれた記念碑
 千春会病院前 (今号 表紙写真)



小林副振興局長、小田市長、菊地理事長はじめとする関係の方々

お役に立てればと周辺整備にご協力をさせていただきました。

除幕式当日は、記念式典の後、千春会病院前の白布に包まれた記念碑前に、小林副振興局長、長岡京市小田市長、理事長、市議会議長はじめとする関係者の方々が集まりました。掛け声を合図に除幕の紐を引っ張ると、陽光に輝く記念碑が現われ、モダンな石碑に思わず感嘆の声が上がります。

縦横のラインは当時の寸法と同じ縮尺で大路小路の条坊制を、中心に真すぐ伸びるのは朱雀大路と長岡京名産の「竹」を表しています。

平城京・平安京に勝るとも劣らない規模であった長岡京。存在の証ともいべき記念碑は、これより長岡京市の誇れるシンボルとなることでしょう。

せんしゅん **時記** **2**

受賞おめでとう！ 10月17日

京都府危険物安全協会連合会、会長賞 受賞

消火器の部 男子 23 チーム出場での快挙！

第 4 回 乙訓消火技術競技会へ「千春会自衛消防隊」出場

毎年出場の乙訓消火技術競技会で、男子 23 チームが競技した結果、千春会が受賞。忙しい業務の合間を縫って懸命に練習を重ね、当日も



炎に挑むメンバー

ギリギリまで練習して臨んだ努力の賜物でした。気合十分の若いパワーときびきびした動きは、最終競技チームということもあり、見入っていた全参加チームから拍手が起こるなど感動的でした。競技だけでなく、万一の火災時には、初期消火で防げるよう、さらに技術を磨いていきます。



ガッツポーズを決める千春会自衛消防隊 (男子の部・女子の部、出場メンバー指導担当)

・ ・ ・ 地元のみなさんとともに

編集後記

明けましておめでとうございます。今号表紙は千春会病院前「長岡京発見之地 記念碑」。長岡京の第一発見者、故・中山修一先生がご存命の頃、この日を迎える事など知る由もなく、まだ学生だった私は、先生と共に発掘調査をしておりました。今、数十年の時を経て、不思議なご縁に導かれ「千春会」へ…。広報は、千春会に眠る「人」という素晴らしい宝を発掘し、光を当てていくのも務め。光輝く記念碑と共に、千春会も永遠にこの地に輝き続けてまいります。(弘)

患者さまの権利と義務

当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。

- 1 患者さまは誰でも、良質な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
- 2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります (インフォームドコンセント)。
- 3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります (セカンドオピニオン)。
- 4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
- 5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
- 6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

また良質な医療と看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。

- 1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
- 2 十分理解できるまで質問していただき、納得した上で治療をお受けください。
- 3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。



日本医療機能評価機構認定病院

千 春 会 病 院

〒617-0826 京都府長岡京市開田 2 丁目 14-26
 TEL. (075)954-2175 FAX. (075)955-4615

2011年1月号 Vol. 22 (2011年1月1日発行)

せんしゅん

<http://www.senshunkai.or.jp/>

千春会

検索



ISO9001 : 2008 認証取得
 日本医療機能評価 (Ver.5) 認定病院

発行責任者：菊地 孝三



『長岡京 発見之地』記念碑
 (「千春会病院 前」長岡京市開田2丁目)



理 念 (3つの使命)

- 1 患者・利用者の自立を支援し、良質な医療・看護・介護を提供する。
- 2 仕事に誇りと責任を持ち、社会人としての向上を目指す。
- 3 事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

医療法人社団 千春会

新春のご挨拶

～これまでの15年、 これからの15年～



理事長 菊地 孝三

謹んで新春のご祝辞を申し上げます。

昨年は、国内・国外ともに危機感さえ覚えた、非常に不安定な感のある一年でした。

本年も先行き一層不透明な年始となりましたが、千春会は、今年も、理念である「良質な医療・看護・介護の提供」を目指し、着実に前進を図ってまいります。

さて、私が平成8年11月に長岡京の千春会に赴任いたしましたから、今年で15年目を迎えました。振り返りますと、まさに激動の14年間でありました。

赴任当時の千春会は、経営的にも運営的にも、必ずしも芳しい状態の法人ではありませんでした。そういった中で、職員間の意思疎通を図り、まず始めに、法人としての運営方針をしっかりと打ち出した後、内部の様々な体制改革に取り組みました。

平成11年にはデイケアセンターを開設し、翌年4月からの介護保健制度の施行に合わせて「ホームヘルプ事業部」の設置を行い、居宅介護支援事業所と訪問介護センターを開設し、本格的な医療と介護が連携したサービスの提供を開始いたしました。

その後も、認知症対応型を含む5ヶ所の通所施設をはじめ、入所施設、居宅介護支援事業所、訪問介護センター等を順次開設してまいりました。

また、京都府相楽郡和束（わづか）町には「特別養護老人ホーム わらく」を開設し、関連法人での運営を開始いたしました。

平成17年7月には病院建て替えを機に病院名を「千春会病院」と改め、病院施設や機器の

整備など、ハード面での強化に加え、さらに質の向上を目指すべく、平成18年には病院をはじめとする全施設でISO認証を取得、翌年には「医療機能評価（Ver.5）」、さらにその翌年には「看護基準 7：1」を取得いたしました。翌21年には「疾患別リハビリ」で最高基準「Ⅰ」を取得し、介護施設におきましても第三者評価において高い評価を得る事ができました。

ハードとソフト両面の充実を目指し、全職員がたゆまぬ努力を続けてきた結果、月間延べ患者・利用者数は1万4000人を超え、名実ともに「地域のかかりつけ病院」として、一定の信頼を得られたものと自負しております。

そして昨年1月には、京都府立医科大学名誉教授 近藤 元治先生をお招きし、ガンの温熱療法を行う、ハイパーサーミアクリニックを開院、7月には訪問看護ステーションを開設し、11月には院内保育所「すずらん」の開設、医局移設をはじめとする改修・増設など、職場環境・施設設備の充実も並行して行ってまいりました。

さらに、昨年11月11日には、節目の15年を迎えるにふさわしく、千春会病院前に「長岡京発見之地」（今号表紙写真）として、後世に残る素晴らしい記念碑が建立され、桓武天皇がこの地に移幸され、平城京から長岡京に遷都された西暦784年（延暦3年）11月11日にちなみ、除幕式が執り行われました。

古の長岡京は、現在の向日市から長岡京市、大山崎町に至るまでの平城京・平安京にも匹敵するほど大きく、かつ、本格的な都であり、向日市

には政治を司る大極殿、長岡京市は商業ゾーン、大山崎町は流通ゾーンとして、政治・経済・文化交流の都であったことが、これまでの2000回に及ぶ発掘調査でわかってまいりました。

文献でしかその存在が示されていなかったため、長らく「幻の都」と称されてきた長岡京ですが、偶然とはいえ、発見の端緒となったのが千春会病院の真下であったという事は、誠に感慨深いものがあり、深い「ご縁」を感じる次第でございます。

さて、一つの区切りとなる15年目を迎えた千春会ですが、今後、団塊の世代が一様に高齢化を迎え、高齢者人口が約3600万人とピークを迎えるのが2025年といわれております。

千春会の次なる15年といたしまして、「組織」としての成熟を図るとともに、この2025年を見据え、乙訓地域全域の「医療と介護」のより一層の基盤整備を図ってまいることが肝要と考えております。

そのためには24時間365日を通じたサービス提供により、病院や施設を補完的に利用しながらも、住み慣れた地域での生活を継続していただくための「在宅支援」が重要となってまいります。

その第一歩といたしまして、今春には、在宅復帰機能を前面に打ち出した、京都府下でも大型の「介護老人保健施設 春風」を長岡京市久貝（くがい）に開設いたします。全室個室を有する、この春風は、病院とご自宅をつなぐ中間的役割を担いつつ、リハビリテーションに

重点を置いた施設として機能してまいります。

さらに今後の事業展開といたしまして、新たな介護複合施設の開設を向日市に予定しており、在宅支援拠点の新規開設による拡大・拡充を通じた、包括的な介護支援事業等を計画しております。

また、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護が密に関わりを持つことで可能となる、「地域における在宅生活のトータルな支援」を目指し、地域の医院・診療所の先生方や周辺の拠点病院との連携をさらに密にし、他の地域の介護施設などとも協力し合いながら、「医療と介護の連携」をさらに強化してまいります。

そして、地域に暮らす方々が、心身ともに健康で、より充実した生活を送っていただけるよう、トレーニング施設の運営をはじめ、増加の一途をたどる待機児童の問題解決の一助として、幼児と高齢者が自然に触れ合うことのできる「保育・高齢複合施設」の開設や障害者も健常者も互いに交流を図れる施設の開設なども視野に入れております。

これからも、千春会が『なくてはならない存在』であり続けられるよう、職員共々しっかりと気を引き締めて「良質な医療・看護・介護の提供」を目指し、誠心誠意努めてまいる所存でございます。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。
本年もよろしくお願い申し上げます。

平成23年 元旦

新春対談

我々の役割は 笑顔を引き出すこと

今回は、昨年千春会にお越しいただいた、ガン温熱療法ハイパーサーミアの権威で千春会ハイパーサーミアクリニック院長の近藤元治先生(京都府立医科大学名誉教授)と腹部超音波診断の第一人者 内科の朝井 均先生(大阪教育大学名誉教授)に、対談していただきました。

お二人は「患者さんの身体に優しい治療」を胸に「ガンの温熱療法」「超音波診断」に尽力してこられた高名な先生方ですが、気さくに接して下さり、いつも親身な診療と、患者さんにも評判です。

「地域包括ケアシステム」の話や、さらに、そこに向ける理事長を筆頭とする職員のひたむきな想いと行動力を目の当たりにするうちに、出来るのではないかと思え、今は「千春会なら必ず実現できる」という考え方に変わってきました。理念の実現に向け、真剣に取り組んでいる姿勢が素晴らしい。

しかし「遊行情」は、子どもに返って良い遊ぶ時期です。昔から「年を取ると子どもに返る」と言われますが、お年寄りの方は「オムツをして恥ずかしい。情けない。」とおっしゃるし、周りも「なんでオムツなのか」といった認識です。



ベースには、無医村診療や海外医療援助の経験、海外青年協力隊への想いなど、「医療による社会貢献」という熱い想いをお持ちの先生方。今後もその輝かしい功績を地域の皆さんへの診療に活かしていただけることと思います。

オフは、共通のご趣味であるテニスを学生たちと楽しんでおられるそうです。

高齢者、ガン患者さんを対象とする「老健」「ハイパーサーミア」共に、ドクターである我々の今後の使命には医療と介護の連携で「人の笑顔を引き出すこと」という役割が、大いにあります。



昭和37年 京都府立医科大学卒業
昭和53年 京都府立医科大学第1内科教授
平成5～7年、9～11年 京都府立医科大学附属病院院長
平成12年 京都府立医科大学名誉教授
藍野病院院長
平成20年 藍野病院名誉院長
平成22年 千春会ハイパーサーミアクリニック院長

近藤 元治先生



朝井 均先生

昭和44年 大阪市立大学 医学部卒業
昭和56年 大阪市立大学助教授
昭和59年 大阪教育大学教授
保健管理センター所長
平成20年 大阪教育大学名誉教授
「介護老人保健施設 サンスマイル北野」施設長
平成22年 千春会病院 内科



朝井先生：一種のカルチャーショックでしたね。2年間、他法人の「老健」に勤務しましたから、在宅生活に帰っていただくという事は現実にはそう簡単にはいかないと感じていました。ところが、理事長から医療だけでなくトータルに一人の方を診ていくという「地域包括ケアシステム」の話や、さらに、そこに向ける理事長を筆頭とする職員のひたむきな想いと行動力を目の当たりにするうちに、出来るのではないかと思え、今は「千春会なら必ず実現できる」という考え方に変わってきました。理念の実現に向け、真剣に取り組んでいる姿勢が素晴らしい。

今後の千春会に期待して

近藤先生：今後の千春会の課題は、千人規模の組織をどのようにコントロールするかという点でしょう。そのためには良い人材を集め、優秀な中間管理職を育て、任せていくことが大切になります。ボクにとっては、長年培ってきた知識や経験に加え、ハイパーサーミアクリニックで、ようやく古来の京都のために医療ができる喜びを感じています。これからも千春会には、注目の法人になりますが、若いドクターに千春会病院の魅力を見て欲しい。さらにグレードの高い病院になって欲しいですね。朝井先生は、来春から「老健」が舞台になりますが、朝井先生：最近、読んだ本(「遊行情」の中に「遊行情(ゆうぎょうき)」という言葉がありまして、人生の終盤ですが、この時期は「子どもに返って遊ぶ時期」だそうです。昔から「年を取ると子どもに返る」と言われますが、お年寄りの方は「オムツをして恥ずかしい。情けない。」とおっしゃるし、周りも「なんでオムツなのか」といった認識です。

高年齢者、ガン患者さんを対象とする「老健」「ハイパーサーミア」共に、ドクターである我々の今後の使命には医療と介護の連携で「人の笑顔を引き出すこと」という役割が、大いにあります。

春風 ニュース

23年 春 開設予定

介護老人保健施設 「春風」

全室個室トイレ付

長岡京市久貝1丁目 6-14 (サントリービール工場前)

いつまでも安心してご自宅で暮らせるよう…

完成予想図

新年を迎え、いよいよ春のオープンに向け「介護老人保健施設 春風」は、急ピッチではありますが、安全かつ着実に進行しております。

医療機関と在宅とをつなぐ中間施設としての役割を担う「春風」では、入所後の一定期間(3か月程度)、医師・看護師・リハビリスタッフ・管理栄養士・介護職員等の多職種共働による、充実したリハビリテーションを行い、在宅復帰を実現していきます。

また、介護の負担軽減を目的とした入所、退所後の支援、看取りなどにも取り組み、皆さまが、住み慣れた地域で安心して過ごしていただけるよう「地域リハビリテーションの中核施設」「在宅生活支援施設」としての使命を果たしてまいります。



「全室個室・トイレ付」のプライベートを重視した部屋は、憩いと安らぎの自室のように…。
「光と風と水」を全体コンセプトとした施設は、陽光あふれる大きな窓を配し、明るく快適に…。

開放感のあるエントランスを含め、四季の移ろいや自然を感じる事の出来る展望スペースや緑化庭園をはじめ、地域の方々やボランティアさんが集い、穏やかな時を過ごせる「交流スペース」なども設けています。

地域に溶け込んだ施設として、皆さまの拠り所としていただければと願っております。

理念である「良質な医療・看護・介護の提供」により、地域の皆さまの在宅生活をしっかりと支援できるよう、法人の全職員が心を一つにして、この大きな事業に取り組んでいます。



平成22年の「春風」絵巻

サントリービール工場前で着々と進行中の建設工事

安全に迅速に…



地鎮祭(平成22年6月18日)



認知症対応型デイサービスセンター風車

ここでは、より、きめ細やかな個別対応ができるよう、少人数で過ごしていただき「好きなこと、出来る事、したい事」を通じて、その方らしく過ごしていただけるように配慮しています。また、床の間のある和室や掘りごたつ、キッチン、お風呂など、ご自宅のように自然な形でくつろいでいただけるような環境を提供しています。

DS 風車の日

朝 朝のミーティングでは、本日の留意点など、職員全員で情報の共有をはかります。

送迎車がお迎えに出た後は、お風呂の準備や各部屋の準備を入念に行います。

「もうすぐ到着します」との電話が入ると、職員は玄関前で送迎車を待ち、笑顔と声かけでお迎えし、1階・2階へ誘導します。

お茶とおしぼりで一息ついていただき、話しかける中で今日の体調などにも配慮します。

看護師を中心に、体温や血圧などのバイタルチェックからも様子を確認し、体調に問題のない方から、ゆっくり入浴を楽しんでいただきます。

午前のひととき

「本は読めますか?」「塗り絵の続きはどうですか?」など、その方にあった内容を声かけし、皆さんそれぞれの「したい事。できる事。」を優先します。

洗濯物たたみやメモ用紙作りのお手伝いをさせていただいたり、塗り絵やパズルで指や頭の体操をされる方も…。

少し落ち着かない様子の方には、個別に寄り添いながら、少しずつ声かけをしたりスキンシップなどで安心していただけるよう気配りしています。

午後には・・・

2階では、食事の配膳準備や盛り付けなどのお手伝いといった、昔なじんだ家事をする事で、雰囲気を感じ、機能維持・向上につなげます。職員がご飯を食べやすくおにぎりにしたりと、準備ができればお待ちかねの昼食です。介助の必要な方は職員がお手伝いをします。

昼食後は、静養室で横になる方や将棋や読書、歌、カードゲームなど、約100種類の作業活動の中から、その方に合った事を楽しんでいただき、思い思いの時間がゆったりとしたペースで流れます。

おやつタイムの15時頃に職員は療養手帳の記録なども同時に進めます。トイレを済ませていただき帰宅準備ができればお見送りの時間。その間、片づけや整理整頓を行い明日に備えます。

終わりのミーティングでは、詳細に情報を共有し、明日も皆様が安心して過ごしていただけるような万全の体制で臨みます。

認知症が進むとご本人が「～したい」という意思表示も少なくなりますが、職員が細やかに密に関わることで、その方の「したいこと」や「行える機能」などを見つける事が出来ます。

また、医療と介護の連携を密にしており、「千春会病院」勤務の京都大学附属病院認知症専門医と共に利用者様の状態を示す項目式の評価「長谷川式」だけではなく、精神状態尺度を点数で評価する「NMスケール」という評価も取り入れ、ご家族様にもわかりやすく、現在の状態をお伝えしています。



風車 責任者
塩井 大寛

お知らせ

いつも、ショートステイをご利用いただきましてありがとうございます。

おかげさまで、開所以来、この3年半は、100%の稼働となっており、ご利用を希望される方には、入所をお待ちいただくこともあり、ご迷惑をおかけしております。

現在、通常午前11時にお越しいただき、お帰りになる日の午後5時にお送りしておりますため、午後5時以降はお部屋が空室となる場合がございます。

つきましては、ご家族様の緊急時やご利用をお待ちの方々、翌日早朝に外出する予定ができた場合や夜間の介護にご負担を感じておられる方などに、夜間帯空室利用の受け入れをはじめております。

また、その際、当日の午後6時から午前0時までに入所していただいた場合、介護給付費は半額とさせていただきます。

ご利用を希望される方やご質問、詳細等につきましては、事業所担当者や担当ケアマネジャーの方まで、お気軽にお問い合わせください。

ショートステイでは「お越しの利用者様には、ご自宅のようにゆったりと寛いでいただき、ご家族様には、ひとときの休息を得ていただければ…」と考えております。

お問い合わせ先

せんしゅんかい
ショートステイ上植野

担当者 三輪 健雄

問い合わせ時間

午前9時～午後5時

問い合わせ先

電話 (075) 931-7001
FAX (075) 931-7003

職場体験

デイサービスセンター友岡
デイサービスセンター上植野

長岡第三中学校

11月4日・5日

11月に長岡第三中学校から、かわいい4人の中学生が職場体験にやってきました。緊張しながらも利用者さんと笑顔で話す姿はとても楽しそうでした。ぜひ、この体験を今後に活かしていただければと願っています。

☆ DS 上植野で体験

● 神谷さん

医師になりたいので、医療関係に興味がありました。介護を選んだのは、利用者さんとお話がしたかったからで、暗い感じだと思っていたら、皆さん元気で明るくて驚きました。戦時中の話では、中学生の頃に防空壕に逃げたといった話をしてもらいました。

● 藤野さん

自分のおじいさんが施設にいたので、私も介護施設体験にしました。施設はイメージより、ずっとキレイで広かったです。気配りが大切なので、1日目は気疲れしましたが、スタッフの方が冗談で笑わせて下さり、気持ちりが和みました。

★ DS 友岡で体験

● 北村さん

介護施設はどんな事をしているのか、興味がありました。初めは、難しいと思っていましたが皆さんハキハキ話されるので楽しかったです。カラオケの時も皆さん楽しそうで、昔はこんな音楽だったと歌を教えてもらいました。

● 深野さん

おじいちゃん、おばあちゃんに接することで、時代の変化を感じる事が出来ました。「お金は大切だよ」と話してもらえ共感できました。お母さんが看護師なので人の役に立つ仕事してみたいと思った。想像していた通り、やさしいイメージでした。

利用者さんの手作りブローチを胸に

